

< こどもがかかりやすい感染症

＊ ＊ 予防の基本は手洗い、うがい、咳エチケット ＊ ＊



病名	潜伏期	主な症状と経過	予防接種	うつりやすい時期	休園の目安	留意事項
麻疹(はしか)	約10日	咳、鼻水、くしゃみ、目やにで始まり、続いて発熱。いったん解熱し再度発熱する。同時に発疹ができる。口の中にコプリック班。	有	発疹前4日～後5日	解熱後3日を経過するまで(医師の許可必要)	合併症は気管支炎、肺炎、中耳炎。感染力が強い。
風疹(三日ばしか)	2～3週間	軽い発熱。同時に細かい発疹が全身に出る。首、後頭部、耳後リンパ腺が腫れる。	有	発疹出現前7日～後7日	発疹がなくなるまで(医師の許可必要)	髄膜炎に注意。妊娠初期は注意。
水痘(みずぼうそう)	10～20日	軽度の発熱。周りに赤みのある丘疹から水疱になり、約1週間後に全部がかさぶたになる。かゆみがある。	有	発疹出現前日～かさぶたになるまで	すべての発疹がかさぶたになるまで(医師の許可必要)	かゆみが出やすいので、掻かないように爪を短く切る。
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	2～3週間	耳下腺が腫れ、痛みがある。腫れは両側もしくは片方で、数日ないし1週間(時に2週間)で回復する。熱は出ない事も多い。	有	発病1週間前～腫脹から5日程	※学校安全法の改正あり。耳下腺の腫れが消失するまで⇒腫れが発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで。(医師の許可必要)	髄膜炎、睾丸炎、卵巣炎に注意。年長児や大人では症状が強くなり、合併症を起こしやすい。
百日咳	7～10日	1～2週間にわたり、咳、鼻水、くしゃみ続いて特有の咳(コンコン、ヒューヒュー)が3～4週間つづいた後、2～3週間で回復。	有	感染後7日～20日	特有の咳が消えるまで約1ヶ月(医師の許可必要)	肺炎、髄膜炎、中耳炎になりやすい。乳幼児は重症になりやすい。
インフルエンザ	1～3日	突然39～40℃の高熱が出て、寒気、関節痛、筋肉痛を起こす。	有	発熱前日～発熱期間中。	発症から最短5日間休み。熱が続いた時は解熱後3日経過してから(医師の許可必要)	インフルエンザ脳炎、肺炎、気管支炎等合併症に注意。
流行性角結膜炎(流行り目)	5～7日	目がゴロゴロして痛がゆい。目の充血、目やに、涙目、まぶたの腫れと痛み。	無	発病後2～3週間(発病後1週間は感染力が強い)	治癒するまで(医師の許可必要)	感染力が強い。プールは医師の許可があるまで中止。
咽頭結膜炎(プール熱)	5～7日	咽頭炎(のどの腫れ、痛み)、結膜炎(目の結膜の赤み、目やに)発熱が主症状	無	症状がある間	主症状がなくなって2日を経過するまで(医師の許可必要)	ウイルスは咽頭から2週間、便から4週間、排出される。その間プールは中止。
溶連菌感染症	1～3日	突然の高熱、続いて全身に発疹。のどが赤く、舌は莓状になる。熱が下がると皮膚が膜状にむけてくる。	無	潜伏期から10日間	熱が下がり抗生剤を飲み始め24時間経っていれば登園可	抗生剤を10～14日、医師の指示通り内服しましょう。急性腎炎、リウマチ熱に注意。
手足口病	3～5日	手、足に丘疹、小水泡。口の中に白い口内炎。	無	のどから(唾液など)1週間。便から数週間	解熱し、口内炎が治癒傾向で食事摂れるようになってきたら登園可	無菌性髄膜炎や脳症などの合併症に注意。
伝染性紅班(りんご病)	7～18日	両頬に鮮やかな赤色のやや盛り上がった紅班ができる。1～2日すると上肢や大腿にレース状の紅班。熱はほとんど出ず、食欲も落ちない。	無	発疹出現前1週間	医師の指示を確認しましょう。	発疹が出たら感染力は少ない。
RSウイルス	4～6日	発熱、鼻水、咳などの風邪症状。大人や学童は軽い風邪位で経過するが、乳児ほど症状は強く、6ヶ月未満の乳児では細気管支炎を起こす事がある。	心疾患など対象児のみ	飛沫・接触感染	解熱し、ひどい咳がおさまり全身状態がよい。医師の指示を確認しましょう。	気管支ぜんそくや心臓病を持っている子は呼吸状態が悪化しやすい。
マイコプラズマ肺炎	6～32日	発熱、かぜ症状、全身倦怠感、頭痛など。次第に咳がひどくなる。軽い上気道症状～気管支炎～肺炎までさまざま。まれに胸の痛みや発疹。合併症として中耳炎、肝機能障害、髄膜炎、脳炎。	無	飛沫感染	解熱し、ひどい咳がおさまり全身状態がよい。医師の指示を確認しましょう。	学童児で多い。幼児、大人もかかります。特にぜんそくや心臓病、ダウン症候群などの基礎疾患のある小児では重症化に気をつける。
伝染性膿疱(とびひ)		虫刺され等をかきこわして細菌が付き水泡・膿疱となる。かゆみがある。水泡が破れ、とびひする。	無	接触感染		かきこわさないよう爪は短く。抗生剤の内服・塗布を医師の指示通りに。感染予防のため変えのガーゼ等持参し覆って登園してください。プールは中止。
伝染性軟属腫(水いぼ)		ウイルスの皮膚感染によっておこる。感染力はそれほど強くない。かゆみや痛みはない。	無	接触感染		水いぼが破れた時に皮膚がすれたり、タオルを介してなどで移ります。プールには入れます。とびひになる事もあるので受診をお勧めします。数ヵ月から数年かけて抗体ができる。